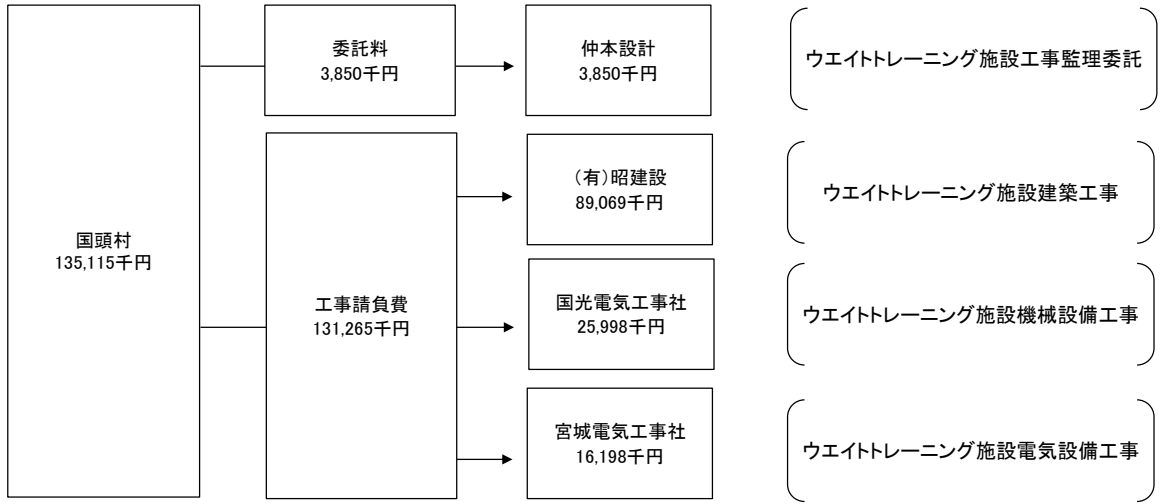


市町村名		国頭村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	スポーツコンベンション観光振興事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ	
担当部課名	企画商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～令和元年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	スポーツ施設の機能強化によるスポーツ合宿の実施増加に繋げるため、ウエイトルームを整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R2年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	25,071	8,109		15,605	156,308	
	(b) 予算現額	78,288	18,712		15,605	138,008	
	(c) 増減額(b-a)	53,217	10,603	0	0	▲ 18,300	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	78,288	18,712	0	15,605	138,008	
	B. 執行済額	77,932	18,441		14,049	135,115	
	うち交付金充当額	62,345	14,753		11,238	108,092	
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	99.5%	98.6%	#DIV/0!	90.0%	97.9%	
予算の状況の説明	当初の計画通り予算を執行した。 減額18,300千円については入札残を3月補正で減額したものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	現場技術監理業務の実施	目標	(監理業務の実施)	()	()	()	
		実績	監理業務の完了				
	ウエイトルーム整備工事の実施	目標	(整備工事の実施)	()	()	()	
		実績	整備工事の完了				
達成状況説明	・現場技術監理業務及びウエイトルーム整備工事を計画どおり実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R2年度)
	現場技術監理業務の完了	目標	()	(監理業務完了)	()	()	()
		実績		監理業務完了			
	ウエイトルーム整備工事の完了	目標	()	(整備工事完了)	()	()	()
		実績		整備工事完了			
	【R2成果目標】 合宿誘致件数:48件以上	目標	()	()	()	()	(48件以上)
実績							
進捗状況説明	・現場技術監理業務及びウエイトルーム整備工事を計画どおり完了することができた。令和元年12月に整備を完了できたことで、令和2年1月のウエイト競技ナショナルチームの合宿に供用開始することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・ウエイトルームの整備により、現在、合宿で利用しているウエイト競技ナショナルチームの他、学生チーム等の新たなスポーツ合宿誘致が可能となった。ただ、施設は他競技のスポーツ合宿でも利用可能であることから、施設利用の重複がないようスケジュール管理を徹底する必要がある。</p>	<p>・ウエイト競技の合宿期間中は施設を優先使用にすることや、他競技の利用希望の確認及び合宿日程の調整を徹底する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・ウエイト競技の優先使用等のルールを定めることや他競技の合宿日程の調整を徹底することで、施設の効果的、効率的な利用が可能となることから、新たなスポーツ合宿チームの誘致につなげていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
135,115	135,115	108,092	27,023	0



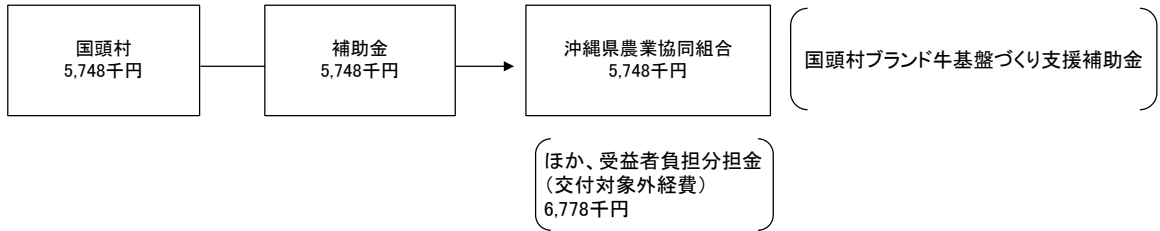
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事施工事業者は指名競争入力で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		国頭村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	国頭村ブランド牛基盤づくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	経済課	事業実施(予定)年度	平成26~令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	農家の所得向上に向けて、子牛のブランド化を推進するため、優良母牛導入の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	10,400	10,400	8,000	8,000	8,000	
	(b) 予算現額	10,400	6,000	8,000	5,903	5,748	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲4,400	0	▲2,097	▲2,252	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	10,400	6,000	8,000	5,903	5,748	
	B. 執行済額	7,200	6,000	7,845	5,903	5,748	
	うち交付金充当額	5,760	4,800	6,276	4,722	4,598	
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	69.2%	100.0%	98.1%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	当初は母牛導入16頭、1頭あたりの補助金額500千円で計画していたが、実績では、15頭の導入、1頭あたり補助金額の平均が383千円となったことにより、3月補正で残額の2,252千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	優良母牛導入支援	目標	(導入支援)	(導入支援)	()	()	
		実績	導入支援	導入支援			
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	・優良母牛を導入する費用の1/2(上限50万円)の支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合117%以上	目標	()	(114%以上)	(117%以上)	()	()
		実績		121%	121%		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合117%以上と設定していたところ、目標を上回る割合121%となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・本事業の説明会を実施して母牛導入状況等を確認し、計画的な母牛の更新による子牛生産性の向上促進を図った。また、生産性の向上のためには母牛の計画的な更新と適切な飼養管理が必要であるため、個々の農家の畜産知識向上及び技術力の向上も必要である。</p>	<p>・今後も優良母牛の計画的な導入をすすめるとともに、優良精液の種付けを推奨していき、優良な子牛を生産する。また、JA指導員等と協力し、最新の市場ニーズの勉強会を開催するなど、需要に応じた子牛の生産に努め、収益性の向上に取り組む。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・引き続き優良母牛の計画的な導入および個々の農家の畜産知識向上及び技術力の向上を目的とした勉強会を行い、合わせて、市場のニーズ調査をJA指導員と協力して行っていき、安定して高値で取引される子牛の生産に努め、収益性の向上に取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,526	5,748	4,598	1,150	6,778



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者はセリ市場での取引等が可能な事業者を選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である畜産農家は総事業費の1/2以上を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		国頭村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-① 学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア				
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成25~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	児童生徒の学力に応じた個々の学習指導を行い学力の向上を図るため、学習支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a)当初予算額	10,936	11,685	14,581	3,528	5,292	
	(b)予算現額	10,938	11,727	1,534	2,983	5,572	
	(c)増減額(b-a)	2	42	▲13,047	▲545	280	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	10,938	11,727	1,534	2,983	5,572	
	B.執行済額	10,681	10,098	1,233	2,916	4,929	
	うち交付金充当額	8,544	8,078	986	2,333	3,942	
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	97.7%	86.1%	80.4%	97.8%	88.5%	
予算の状況の説明	増額280千円については、時間外勤務の増加が予想されたため賃金を3月補正で増額したものである。不用額643千円については、活用見込みであった経費の実績減や交付対象外経費が影響したものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	学習支援員の配置 ・小学校 2名(各校1名) ・中学校 1名	目標	(小学校4人 中学校1人)	(小学校2人)	(2名(各校1名))	(小学校2名 中学校1名)	
		実績	小学校4人 中学校1人	小学校2人	2名(各校1名)	小学校2名 (各校1名) 中学校1名	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	・計画どおり学習支援員を3名(辺土名小学校1名、奥間小学校1名、国頭中学校1名)配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	沖縄県学力到達度調査において、県と本村との平均正答率の差 小学校 国語:-1.0ポイント以内	目標	()	(-0.8ポイント以内)	(-1.0ポイント以内)	()	()
		実績		-1.9ポイント	-1.5ポイント		
	沖縄県学力到達度調査において、県と本村との平均正答率の差 小学校 算数:-3.1ポイント以内	目標	()	(-1.9ポイント以内)	(-3.1ポイント以内)	()	()
		実績		-2.4ポイント	-2.8ポイント		
	沖縄県学力到達度調査において、県と本村との平均正答率の差 小学校 理科:-1.9ポイント以内	目標	()	(-1.6ポイント以内)	(-1.9ポイント以内)	()	()
		実績		-1.8ポイント	-1.9ポイント		
	沖縄県学力到達度調査において、県と本村との平均正答率の差 中学校 国語:-0.33ポイント以内	目標	()	()	(-0.33ポイント以内)	()	()
		実績			-1.9ポイント		
	沖縄県学力到達度調査において、県と本村との平均正答率の差 中学校 数学:-0.07ポイント以内	目標	()	()	(-0.07ポイント以内)	()	()
	実績			-0.7ポイント			
沖縄県学力到達度調査において、県と本村との平均正答率の差 中学校 理科:-0.97ポイント以内	目標	()	()	(-0.97ポイント以内)	()	()	
	実績			-1.7ポイント			
沖縄県学力到達度調査において、県と本村との平均正答率の差 中学校 社会:-1.3ポイント以内	目標	()	()	(-1.30ポイント以内)	()	()	
	実績			-1.7ポイント			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県学力到達度調査小学校(国語)の目標指数-1.0ポイント以内に対して、実績指数-1.5ポイントで目標に届かなかった。 ・沖縄県学力到達度調査小学校(算数)の目標指数-3.1ポイント以内に対して、実績指数-2.8ポイントで目標を達成している。 ・沖縄県学力到達度調査小学校(理科)の目標指数-1.9ポイント以内に対して、実績指数-1.9ポイントで目標を達成している。 ・沖縄県学力到達度調査中学校(国語)の目標指数-0.33ポイント以内に対して、実績指数-1.9ポイントで目標に届かなかった。 ・沖縄県学力到達度調査中学校(数学)の目標指数-0.07ポイント以内に対して、実績指数-0.7ポイントで目標に届かなかった。 ・沖縄県学力到達度調査中学校(理科)の目標指数-0.97ポイント以内に対して、実績指数-1.7ポイントで目標に届かなかった。 ・沖縄県学力到達度調査中学校(社会)の目標指数-1.30ポイント以内に対して、実績指数-1.7ポイントで目標に届かなかった。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(小学校国語:-1.0ポイント以内) ・小学校は記述式設問での正答率が低い状態にある。全体的に言語事項に課題が見られ、語彙力、漢字の書き取りの正答率が低い。	(小学校国語:-1.0ポイント以内) ・言語能力の育成を授業の中で意識して取り組む必要がある。
	(小学校算数:-3.1ポイント以内) ・ICTを活用したグループ学習等を行うことで目標の-3.1ポイント以内は達成しているが、「図形」と「記述式」等の説明問題の正答率が低い状況である。	(小学校算数:-3.1ポイント以内) ・「図形」については、作図等の活動を充実させる必要がある。また、「記述式」については、作図等の関連する説明問題を行う必要がある。
	(小学校理科:-1.9ポイント以内) ・ICT教育や実験などに取り組んだことで目標の-1.9ポイント以内は達成しているが、物の変化や自然現象など、問題が意図する事柄が理解できていない状況である。	(小学校理科:-1.9ポイント以内) ・意識的に物の変化、自然現象に関わる科学的用語を定着させる必要がある。
	(中学校国語:-0.33ポイント以内) ・記述式の問題に対しては県との差が小さくなっているが、選択問題に対して正答率が低いことから、文章全体を理解していない状況がみられる。	(中学校国語:-0.33ポイント以内) ・語彙力の育成を授業の中で意識して取り組む必要がある。
	(中学校数学:-0.07ポイント以内) ・「図形」の領域と「知識・理解」の評価の観点に課題が見られる。	(中学校数学:-0.07ポイント以内) ・授業の中で、「正解」か「不正解」かのみで学習を進めるのではなく、どうしてそのような回答になったのかの思考過程をしっかりと確認する授業に取り組む必要がある。
(中学校理科:-0.97ポイント以内) ・「短答式」「記述式」ともに県との差は大きい。特に、科学的用語を用いて回答することに課題が見られる。	(中学校理科:-0.97ポイント以内) ・科学的用語について、基礎的・基本的な語句を確実に定着させる必要がある。	
(中学校社会:-1.30ポイント以内) ・思考を伴って文章で表す問題に課題がある。また、一度学習した内容が長期的に知識として定着せず短期的な知識としてとどまっている。	(中学校社会:-1.3ポイント以内) ・授業で得た基礎知識の定着が必要である。	

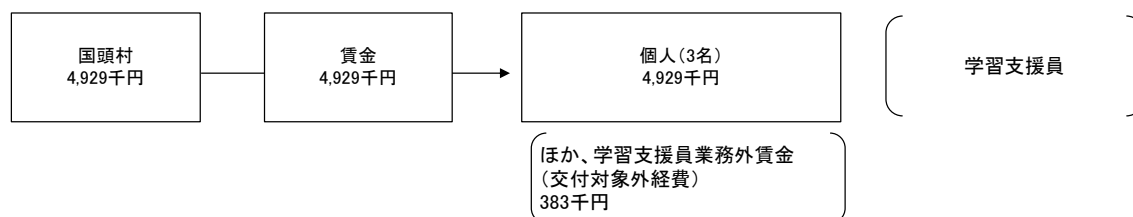
今後の取り組み方針

(小学校国語:-1.0ポイント以内) ・リーフレット等の言語活動を作成する際も、条件付けを行うなど、指導の際にどんなことが書かれていないといけないか等、考えさせる授業を展開する。また、授業の中で、絶えず辞書を引く癖をつけるよう、「音読みは?」「意味は?」「この漢字を使った熟語は?」など平日頃からの言語について意識するよう支援していく。
(小学校算数:-3.1ポイント以内) ・「図形」については、ICT機器等を活用し、図形の性質や書き方をしっかり理解させる。また、「記述式」については、課題問題を取り組む中で、グループ学習を充実させ、児童が説明する場面を支援していく。
(小学校理科:-1.9ポイント以内) ・教職員が意図的に物の変化及び自然現象に関わる用語を使うと同時に、児童が説明する際にもその用語を活用できるような課題等をあてることにより支援していく。
(中学校国語:-0.33ポイント以内) ・日常的に語彙力をつける意識を持たすため、どの領域の授業においても、辞書等を用いて多様な語句を意識的に使用できるように支援していく。
(中学校数学:-0.07ポイント以内) ・到達度調査の結果を踏まえ、生徒がわかったつもりにならぬよう学習支援員が教職員と連携して課題に対して理解をし、丁寧な事業を実施する。
(中学校理科:-0.97ポイント以内) ・基礎的・基本的な語句を確実に定着させるためには、課題解決型の授業や探求を中心とした授業を展開して、基礎的・基本的な語句とを連動させた授業支援を行っていく。
(中学校社会:-1.3ポイント以内) ・授業でインプットされた情報を文章で表すことや自らの意見を発表し合う場面を設けた授業を行い、基礎知識の定着を図る支援に取り組む。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
5,312	4,929	3,942	987	383



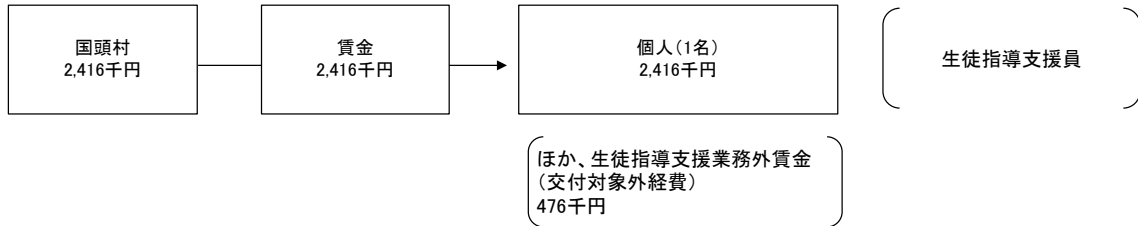
資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の任用方法については、村の規則による採用及び必要な知識等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額は事業費の11.5%であるが、交付対象外経費の影響によるものであり事業内容、予算規模については適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	国頭村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-② 生徒指導支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-5-(3)-イ					
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度 平成30~令和2年度 沖縄振興基本方針該当箇所 豊富な心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)					
事業内容	不登校の児童生徒に対応した支援を行い不登校の改善を図るため、生徒指導支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	4,001	2,751				
	(b) 予算現額	2,150	2,892				
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,851	141	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	2,150	2,892	0	0	0	
	B. 執行済額	2,150	2,416				
	うち交付金充当額	1,720	1,933				
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	83.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	増額141千円については、時間外勤務により賃金を予算流用したものである。 不用額476千円については、交付対象外経費によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	生徒指導支援員の配置 ・中学校 1名	目標	(中学校1名)	(中学校1名)	()	()	
		実績	中学校1名	中学校1名			
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	・計画どおり生徒指導支援員を1名(国頭中学校1名)配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	R30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	不登校児童生徒復帰率 30%以上	目標	()	(15%)	(30%)	()	()
		実績		50%	75%		
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	・平成31年3月末時点の不登校者4名が令和2年3月末時点で1名となったため、復帰率75%となり目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・学校施設内外の巡回、電話等で不登校生徒への指導及び相談等を繰り返すことで生徒との信頼関係が築かれ不登校生徒の復帰につながっている。また、復帰した生徒へのサポートとして、保健室などで復帰生徒の学習支援に取り組む通常学級への復帰につなげている。</p> <p>しかし、復帰した生徒へのサポート・相談等の対応に追われたことで、定期的に学校外を巡回することができなかった。</p>	<p>・不登校復帰率のさらなる向上につなげるため、スクールソーシャルワーカーとの連携による学校外の定期的な巡回が必要である。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・スクールソーシャルワーカーと連携して巡回計画を作成することにより、効果的な巡回体制を構築していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,892	2,416	1,933	483	476



資金の流 点検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○生徒指導支援員の任用方法については、村の規則による採用及び必要な知識等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額は事業費の12.2%であるが、交付対象外経費の影響によるものであり事業内容、予算規模については適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		国頭村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	村内幼児児童生徒英語支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成25~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	幼児児童生徒の英語学習意欲や英語学力の向上を図るため、英語支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	2,188	2,337	2,914	5,292	7,812	
	(b) 予算現額	2,188	2,338	1,167	2,419	8,072	
	(c) 増減額(b-a)	0	1	▲1,747	▲2,873	260	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	2,188	2,338	1,167	2,419	8,072	
	B. 執行済額	2,133	1,633	993	2,275	7,630	
	うち交付金充当額	1,706	1,306	794	1,819	6,104	
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	97.5%	69.8%	85.1%	94.0%	94.5%	
予算の状況説明	増額260千円については、夏休みの勤務が必要となり、賃金を3月補正で増額したものである。不用額442千円については、活用見込みであった経費の実績減や交付対象外経費が影響したものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	幼児児童生徒の英語等、語学力向上を図るため英語支援員を配置 ・認定こども園、小学校 2名	目標	()	()	(2名)	(2名)	
		実績			2名	2名	
	幼児児童生徒の英語等、語学力向上を図るため英語支援員を配置 ・中学校 1名	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1名)	
		実績	1人	1人	0人	1名	
達成状況説明	・計画どおり英語支援員を2名(認定こども園・小学校:2名)配置した。 ・計画どおり英語支援員を1名(国頭中学校:1名)配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	R30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	認定こども園・小学校 英検Jr取得率 ブロンズ 小学校5年生:83%以上	目標	()	()	(83%以上)	()	()
		実績			42%		
	認定こども園・小学校 英検Jr取得率 シルバー 小学校6年生:80%以上	目標	()	()	(80%以上)	()	()
		実績			67%		
中学校2年生 到達度調査(英語)平均正答率 沖縄県との差:3.5ポイント	目標	()	(-2.2ポイント以上)	(3.5ポイント)	()	()	
	実績		-0.9ポイント	-5.7ポイント			
進捗状況説明	・英検Jr取得率シルバー小学校5年生83%を目標としていたが、実績指数が42%で目標に届かなかった。 ※英検Jr取得率ブロンズ小学校5年生83%を目標指数としていたが、5年生がシルバーを受験をしたことから実績比較することができないため、ブロンズをシルバーに置き換えて検証を行っている。 ・英検Jr取得率シルバー小学校6年生80%を目標指数としていたが、実績指数が67%で目標に届かなかった。 ・中学2年生沖縄県学力到達度調査(英語)平均正答率、沖縄県との差3.5ポイントを目標指数としていたが、実績指数が-5.7ポイントで目標に届かなかった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(小学校5年生:83%以上) ・文章の組み立て、会話問題が課題となっている。	(小学校5年生:83%以上) ・英単語及び語句を意識させる必要がある。
	(小学校6年生:80%以上) ・文章の組み立て、会話問題が課題となっている。	(小学校6年生:80%以上) ・英単語及び語句を意識させる必要がある。
	(中学校2年生:沖縄県との差:3.5ポイント) ・対話の内容を理解したうえで、それを基に書くという総合的にまとめる事が課題となっている。	(中学校2年生:沖縄県との差:3.5ポイント) ・英単語、語句、文章などで得られた情報の総合的な言語活動の工夫が必要である。

今後の取り組み方針

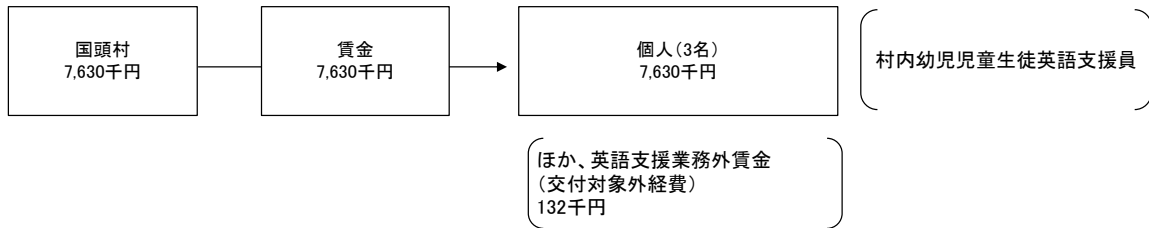
(小学校5年生:83%以上)
・デジタル教科書等による語句の説明、英単語の問題などICT機器等を利用して授業を進めていく。

(小学校6年生:80%以上)
・デジタル教科書等による語句の説明、英単語の問題などICT機器等を利用して授業を進めていく。

(中学校2年生:沖縄県との差:3.5ポイント)
・まとまった文章を読んだ後、得られた複数の情報を取り出して、総合的に判断し、内容に関する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現する授業を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
7,762	7,630	6,104	1,526	132



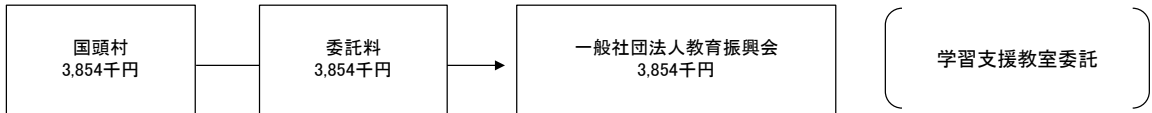
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語支援員の任用方法については、村の規則による採用及び必要な知識等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額は事業費の5.5%であるが、交付対象外経費の影響によるものであり事業内容、予算規模については適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		国頭村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	学習支援教室委託事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成28~令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	中学3年生の高校進学への支援を行うため、学習支援教室(村営塾)を設置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	(a) 当初予算額	3,145	3,144	3,144	4,060		
	(b) 予算現額	3,146	3,144	3,144	4,060		
	(c) 増減額(b-a)	1	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	3,146	3,144	3,144	4,060	0	
	B. 執行済額	2,947	3,143	3,130	3,854		
	うち交付金充当額	2,357	2,514	2,504	3,083		
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	93.7%	100.0%	99.6%	94.9%	#DIV/0!	
予算の状況の説明	当初計画のとおり予算を執行した。 不用額206千円については、委託料の入札残(174千円)と進路講話1回分(32千円)を改定契約で減額したものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	対象: 中学3年生 ・開室期間: 7月下旬~翌年3月・週3回 ・1回3時間 ・科目: 英語・国語・数学・理科・社会		目標 (週3回 1回2時間)	(週3回 1回2時間)	(週3回 1回3時間)	(週3回 1回3時間)	
			実績 週3回 1回3時間	週3回 1回2時間	週3回 1回3時間	週3回 1回3時間	
			目標 ()	()	()	()	
達成状況説明	・学習支援教室を設置して、英語、国語、数学、理科、社会について、7月下旬から翌年3月上旬の間、週3回、1回につき3時間の受験対策を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	受講生の高校受験合格率: 100%		目標 ()	(100%)	(100%)	(100%)	()
			実績	100%	100%	100%	/
			目標 ()	()	()	()	()
			実績	/	/	/	/
進捗状況説明	・全ての受講生28名が高校受験に合格した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・学習支援教室の設置を9月から7月下旬に前倒したことにより、基礎学力(中1、2年生)を指導する期間を確保できたことで、受験対策が円滑に行えるようになった。ただ、苦手教科を把握するために確認テストを実施しているが、苦手教科を克服しているかの確認が取れていない状況である。</p>	<p>・苦手教科克服の確認をするための取り組みを検討する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・引き続き学習支援教室を7月下旬に設置して基礎学力を定着させる。また、苦手教科克服を確認するため、プレテストを実施することにより、効果的な受験対策につなげていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,854	3,854	3,083	771	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額は事業費の5.1%であるが、入札残及び改定契約による減額によるものであり事業内容、予算規模については適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		国頭村					
令和元年度沖繩振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	環境保全・美化推進事業		沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-ア		
担当部署名	世界自然遺産推進室	事業実施(予定)年度	平成27~令和元年度	沖繩振興基本方針該当箇所	生物多様性の保全		
事業内容	地域住民及び観光客の安全確保や貴重な野生生物の保護のため、ハブ・ネコ・イヌ対策を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	6,442	5,199	6,204	7,525	7,527	
	(b) 予算現額	7,345	5,199	5,166	7,525	6,027	
	(c) 増減額(b-a)	903	0	▲ 1,038	0	▲ 1,500	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	7,345	5,199	5,166	7,525	6,027	
	B. 執行済額	5,153	4,755	5,053	7,322	5,671	
	うち交付金充当額	4,122	3,803	4,042	5,857	4,536	
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	70.2%	91.5%	97.8%	97.3%	94.1%	
予算の状況	減額1,500千円については、避妊去勢手術の実績減により、3月補正で減額したものである。また、不用額356千円については、活用見込みであった経費の実績減や交付対象外経費が影響したものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	賃金職員の配置(2人)	目標	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)	
		実績	2人	2人	2人	2人	
	各対策保護捕獲器の設置 (ハブ:30基、犬:3基、猫:30基)	目標	(ハブ30基 犬3基 猫30基)	(ハブ30基 犬3基 猫30基)	(ハブ30基 犬3基 猫30基)	(ハブ30基 犬3基 猫30基)	
		実績	ハブ30基 犬3基 猫30基	ハブ30基 犬3基 猫30基	ハブ30基 犬3基 猫30基	ハブ30基 犬3基 猫30基	
	保護収容ネコの譲渡推進のための避妊去勢等の手術を実施	目標	()	()	(譲渡推進委託業務の実施)	(避妊去勢等を実施)	
実績				譲渡推進委託業務の実施	避妊去勢等を実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ハブ・犬・猫についての罠の設置や保護するための賃金職員2人を配置した。 ハブ罠30基、犬のかご罠3基、猫のかご罠30基を設置した。 譲渡を推進するため、23件の避妊去勢手術を実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	集落及び観光地内やその周辺におけるハブ咬傷被害の未然防止(咬傷被害0件)	目標	()	(0件)	(0件)	(0件)	()
		実績		3件	1件	3件	
	ノラネコ・ノライヌの野生化未然防止(ネコ・イヌによるヤンバルクイナの捕食5件以下)	目標	()	(11件)	(11件以下)	(5件以下)	()
		実績		3件	6件	1件	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ハブの捕獲は計画どおり実施されている。ハブ咬傷被害が3件(平成30年度より2件増)あり、目標の0件に届かなかった。 ヤンバルクイナの捕食は1件(平成30年度より被害が5件減)であり、目標を達成した。 						

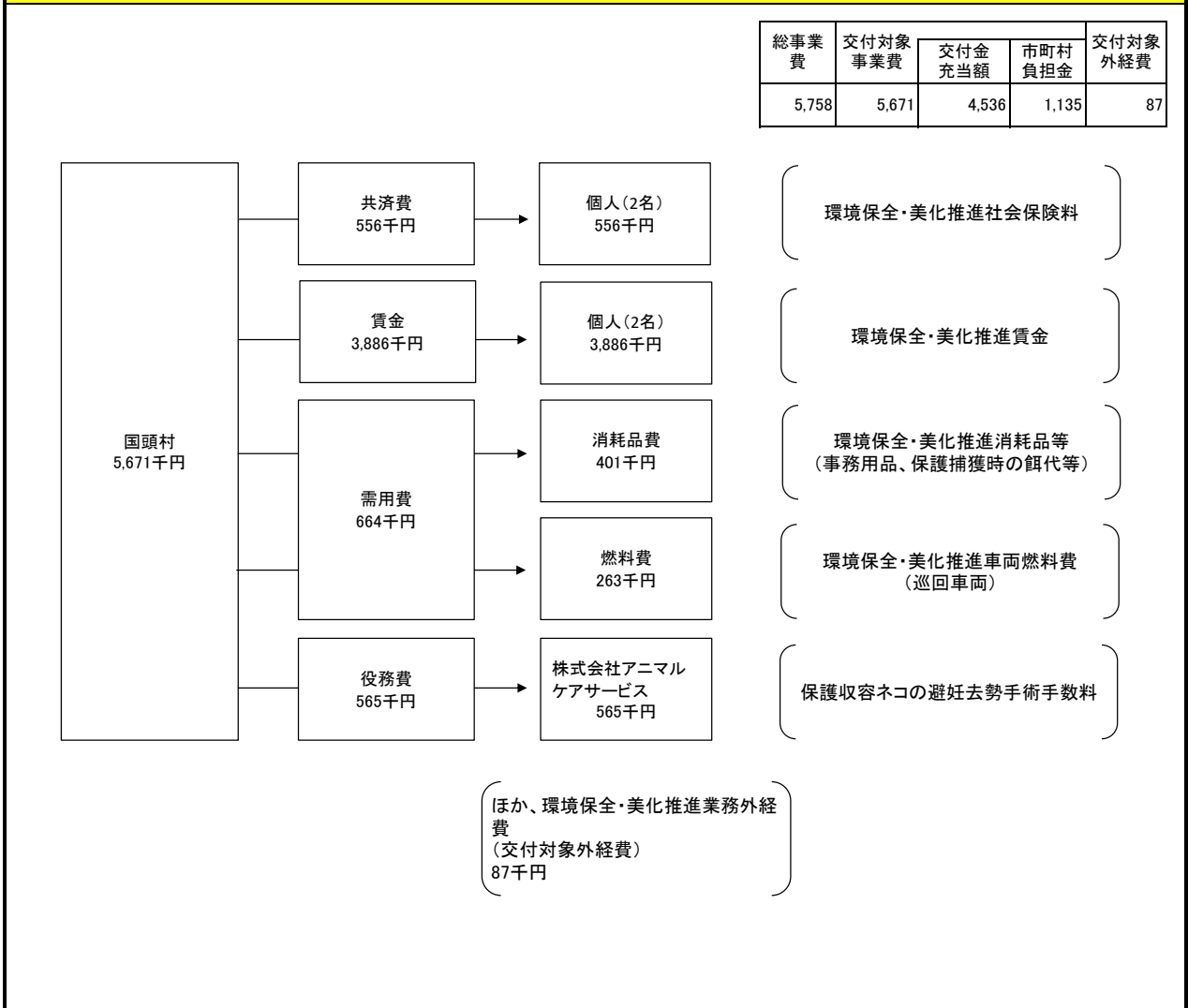
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(ハブ咬傷被害の未然防止) ・ハブ咬傷被害の未然防止に必要なハブの捕獲は目撃情報から罠の設置まで速やかに実施することが捕獲の精度に影響することから、目撃情報に関する呼びかけを区長会等で行い情報収集に努めてきたが、咬傷被害が平成30年度より増となり目標である0件に達していない状況である。	(ハブ咬傷被害の未然防止) ・ハブの捕獲について、目撃情報からの罠の設置だけでは咬傷被害を減らすことができないことから、捕獲方法を検討する必要がある。
	(ノラネコ・ノライヌの野生化未然防止) ・平成30年度に取り組んだノラネコかどうか判断する鈴付首輪の普及により、効果的なノラネコ保護が可能となったことが目標達成の要因と考えられるが、飼いネコへの鈴付首輪の普及率が低い状況である。	(ノラネコ・ノライヌの野生化未然防止) ・鈴付首輪の普及に向けて区長会等で周知してきたが、さらなる普及率向上に向けた取り組みを検討する必要がある。

今後の取り組み方針

(ハブ咬傷被害の未然防止)
・継続してハブの目撃箇所へ罠を設置するほか、目撃箇所以外においては、これまでハブを捕獲した箇所のデータを活用して罠を設置することで、効果的・効率的なハブ捕獲に努める。

(ノラネコ・ノライヌの野生化未然防止)
・継続して鈴付首輪の普及に向けて区長会等で周知することや、ホームページ、広報誌等による周知を取り入れることで、鈴付首輪の普及率向上につなげていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○賃金職員の任用方法については、村の規則による採用及び必要な知識等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○不要額は事業費の5.9%であるが、交付対象外経費の影響によるものであり事業内容、予算規模については適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

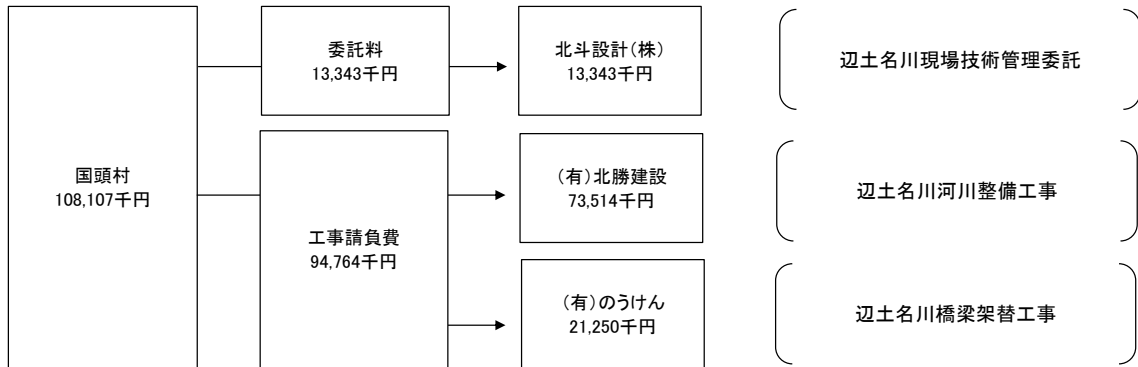
市町村名		国頭村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	多自然川づくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(7)-イ		
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交流と共創による農産漁村の活性化		
事業内容	観光誘客や環境教育の場としての活用を図るため、中心市街地を流れる普通河川(辺土名川)の整備を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	(a) 当初予算額	162,104	67,000	195,536	—	108,226	
	(b) 予算現額	187,041	59,734	205,943	—	108,226	
	(c) 増減額(b-a)	24,937	▲ 7,266	10,407	—	0	
	(d) 繰越額	—	—	—	77,888	—	
	A. 計(b+d)	187,041	59,734	205,943	77,888	108,226	
	B. 執行済額	186,813	52,639	128,055	76,700	108,107	
	うち交付金充当額	149,450	42,111	102,444	61,360	86,485	
	次年度繰越額	—	—	77,888	—	—	
	執行率(%) (B/A)	99.9%	88.1%	62.2%	98.5%	99.9%	
予算の状況の説明	当初の計画どおり予算を執行した。不用額119千円については委託料の入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	河川工事の実施(L=85m)		目標 (河川工事の実施 L=188m)	(河川工事の実施 L=30m)	(河川工事の実施 L=245m)	(河川工事の実施 L=85m)	
			実績 (河川工事の実施 L=111m)	(河川工事の実施 L=51m)	(河川工事の実施 L=268m)	(河川工事の実施 L=97m)	
現場技術管理業務の実施		目標 ()	()	(管理業務の実施)	(管理業務の実施)		
		実績		管理業務の実施	管理業務の実施		
達成状況説明	・河川工事について、当初、河川整備工事と橋梁架替工事を発注したが、橋梁架替工事におけるボックスカルバートへのすりつけ護岸としてL=12mを整備したことにより、整備延長はL=97mとなった。 ・現場技術管理業務について、河川工事と並行して実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R4年度)
	河川工事整備率 61%(734m/全体延長L=1,200m)		目標 ()	(41% 360m)	(73% 686m)	(61% 734m)	()
			実績	39% 381m	76% 649m	62% 746m	
	【R4成果目標】整備した河川沿いにある商店街の観光誘客イベント参加者数 720人		目標 ()	()	()	()	(720人)
			実績				
	【R4成果目標】整備した河川での環境学習参加者数20人		目標 ()	()	()	()	(20人)
		実績					
進捗状況説明	(河川整備工事) ・河川整備について、ボックスカルバートへのすりつけ護岸L=12mを整備したことにより、目標値を上回った。 (成果目標) ・各年度の目標値及び実績値について、平成29年度及び平成30年度は、全体事業費に対する事業費累計の整備費率となっている。全体事業費に対する事業費累計の整備費率にした場合、計画変更等により全体事業費が変動することから令和元年度からは、目標値を全体延長に対する整備累計延長の整備率に変更する。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(河川整備工事) ・工事を実施するにあたり、事前の住民説明会等により、地域住民との情報共有はできていたが、護岸の掘削時において埋設された区管理の農業用水の配管を破損させ漏水となり農業用水を利用している耕作者へ迷惑をかける事態を招いた。 区長へ事前確認はしていたが、図面等もなく埋設箇所が不明であった為、試掘及び埋設管の切り直し・復旧にかなりの日数を要した。	(河川整備工事) 今後漏水等が発生しても迅速に復旧できるように、図面等を作成し、区と共有する必要がある。
	(成果目標) ・令和元年度から目標値の算出に必要な基礎数値を全体延長にしたことで、安定した正確な目標値を設定することができた。	(成果目標) 目標値を意識して計画的に事業を進める必要がある。

今後の取り組み方針
(河川整備工事) ・R2年度の整備区間は、国道部付近(L=57m)及び河口部(L=121m)、計L=178mを整備する予定である。本区間は関係機関との調整が特に必要な区間となっている。また、住民生活と密接に関わる区間でもあるため、関係機関と早期に調整することや村が管理していない埋設物等の把握により、円滑に整備を進めていく。
(成果目標) ・計画的に事業計画及び目標設定を行うと同時に、PDCAサイクルを意識した事業執行に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
108,107	108,107	86,485	21,622	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事施工事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	